

令和 6 年度 事業報告書

(令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日)

目 次

I 法人の概要

- 1 法人の名称
- 2 法人の所在地
- 3 認可年月日
- 4 沿革及び学園の組織
 - (1) 学園の沿革
 - (2) 学園の組織
 - (3) 役員及び監事・評議員の氏名及び役職名
 - (4) 役員賠償責任保険の内容
 - (5) 設置する学校・園の名称及び所在地
 - (6) 設置する学校・園等の入学定員及び学生・生徒・園児数の状況
 - (7) 設置する学校・園・学科等教員・保育士数の状況

II 事業の概要

- 1 有明教育芸術短期大学事業報告
- 2 品川学藝高等学校事業報告
- 3 品川学藝幼稚園事業報告
- 4 品川学藝保育園事業報告

III 財務の概要

※別紙資料の通り

学校法人 三浦学園

I 法人の概要

1 法人の名称

学校法人 三浦学園

2 法人の所在地

東京都品川区豊町二丁目 16 番 12 号

3 認可年月日

昭和 19 年 3 月 31 日

4 沿革及び学園の組織

- (1) 学園の沿革（別紙参照）
- (2) 学園の組織（別紙参照）
- (3) 役員及び監事・評議員の氏名及び役職名

① 理事・監事

〈令和 7 年 3 月 31 日現在〉

役職	選任事項	氏名	現職
理 事 長	第 2 号 理 事	三 浦 洋 義	学園長
常 務 理 事	第 2 号 理 事	三 浦 裕 明	理事長補佐
理 事	第 1 号 理 事	若 林 彰	有明教育芸術短期大学学長
理 事	第 3 号 理 事	富 永 光太郎	(株)リヴィジョン代表取締役社長
理 事	第 3 号 理 事	陰 山 雄 司	岩井機械工業株式会社主幹
理 事	第 3 号 理 事	森 戸 由 久	創価女子短期大学名誉教授
監 事		朝 倉 和 行	(株)朝倉代表取締役
監 事		北 島 芳 昭	元(学)井之頭学園法人事務局長

② 評議員

役職	選任事項	氏名	現職
評 議 員	第 1 号 評 議 員	三 浦 洋 義	学園長・理事長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	三 浦 裕 明	常務理事・理事長補佐
評 議 員	第 1 号 評 議 員	中 西 菊 乃	有明教育芸術短期大学事務局長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	雨 宮 伸太郎	法人事務局長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	小 菅 雅 之	法人事務局経理課長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	渋谷 匡	有明教育芸術短期大学事務局広報課長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	田 中 美 恵	品川学藝保育園長
評 議 員	第 2 号 評 議 員	水 本 眞 澄	元日本音楽学校幼稚園長
評 議 員	第 2 号 評 議 員	平 井 キミ子	品川学藝高等学校同窓会監査

評 議 員	第 2 号 評 議 員	新 井 清	(有) 希望商事代表取締役
評 議 員	第 3 号 評 議 員	磯 是 詔	元本学園法人事務局長
評 議 員	第 3 号 評 議 員	根 本 美 香	根本美香バレエスクール主宰
評 議 員	第 3 号 評 議 員	細 田 洋 平	合同会社よすが学院 代表

(4) 役員賠償責任保険の内容

理事会決議により、令和 3 年 6 月 1 日から役員賠償責任保険に加入

1. 団体契約者

日本私立中学高等学校連合会

2. 被保険者

理事、監事、評議員及び管理職職員

3. 主な補償内容

法律上の損害賠償責任に基づく賠償金、争訟費用等

4. 保険加入期間中の総支払限度額

1 億円

(5) 設置する学校・園の名称及び所在地

名称	所在地
有明教育芸術短期大学 子ども教育学科	〒135-0063 東京都江東区有明二丁目 9 番 2 号
品川学藝高等学校 普通科 (e スポーツエデュケーションコース) (リベラルアーツコース) 音楽科 (ミュージックコース) (パフォーミングアーツコース) バレエ専攻 ミュージカル専攻 (幼児教育コース)	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目 16 番 12 号
品川学藝幼稚園	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目 16 番 12 号
品川学藝保育園	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目 16 番 12 号

(6) 設置する学校・園等の入学定員及び学生・生徒・園児数の状況

(令和6年5月1日現在)

	入学 定員	収容 定員	学生生徒園児 現 員 数	令和6年度 入学者数
有明教育芸術短期大学	100 名	300 名	226 名	52 名
子ども教育学科	100	300	226	52
品川学藝高等学校	100	300	440	215
普通科 (eスポーツエデュケーションコース)	100	300	117	63
(リベラルアーツコース)			68	46
音楽科 (ミュージックコース)			57	22
(パフォーミングアーツコース) バレエ専攻			69	32
(パフォーミングアーツコース) ミュージカル専攻			123	52
(幼児教育コース)			6	—
品川学藝幼稚園	35	150	51	14
品川学藝保育園	9	26	19	2

(7) 設置する学校・園教員・保育士数の状況 (令和6年5月1日現在)

①短大教員

設置校名	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	兼務者
有明教育芸術短期大学	10	4	0	1	0	15	29

*学長は教授に算入

②高校教員・幼稚園教員・保育園保育士

設置校名	専任教諭・保育士	兼務者
品川学藝高等学校	20	69
品川学藝幼稚園	6	5
品川学藝保育園	11	1

II 事業の概要

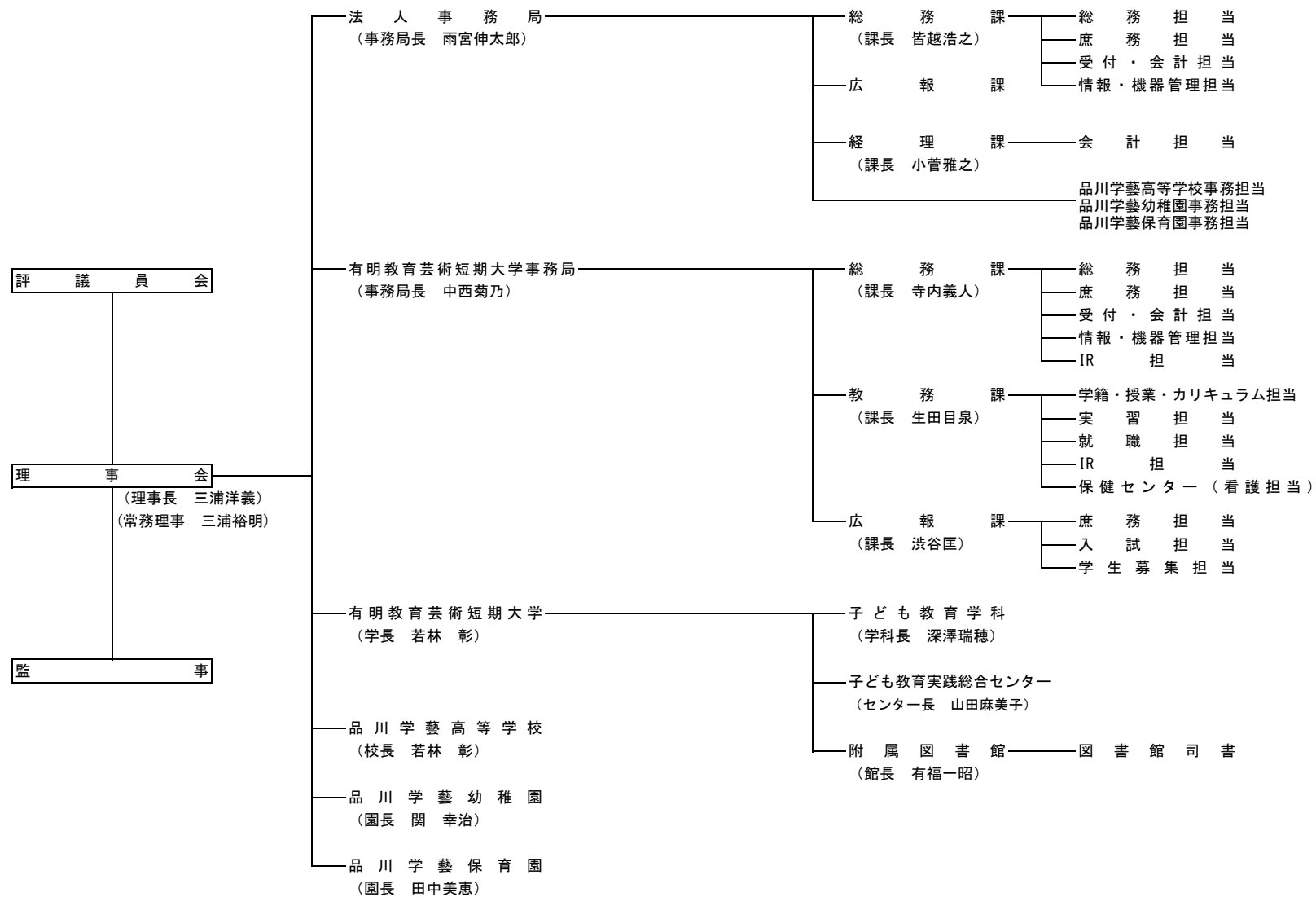
※各学校・園の事業報告は別紙資料の通り

III 財務の概要 別紙資料の通り

法人の沿革	明治36年	山田源一郎により我が国初の私立音楽学校「音楽遊戯協会」として神田淡路町に創立
	明治39年	女子音楽学校(女子)・日本音楽協会(男子)に名称変更
	大正13年	校舎を中野打越に移転
	昭和2年	日本音楽学校に名称変更。創立者・初代校長 山田源一郎死去
	昭和19年	学校法人三浦学園成立(3月31日)
	昭和22年	校舎を品川区豊町に移転
	昭和24年	日本音楽学校附属幼稚園および日本音楽学校附属入新井幼稚園を設置
	昭和25年	日本音楽学校附属豊小学校、日本音楽学校附属豊中学校、日本音楽高等学校を設置
	昭和28年	日本音楽学校に我が国初の教員養成機関(中学校音楽教諭養成科)を設置し、文部大臣の指定認可を受ける
	昭和29年	日本音楽学校に文部大臣指定の幼稚園教諭養成科を設置
	昭和36年	日本音楽学校附属入新井幼稚園を廃止
	昭和47年	日本音楽学校に厚生大臣指定の保母養成科を設置
	昭和53年	日本音楽学校が専修学校に認可
	昭和63年	日本音楽学校創立85周年事業の一環として2号館校舎(教室、中ホール)竣工 日本音楽高等学校 音楽科「バレエコース」設置
	平成4年	日本音楽学校創立90周年事業の一環として三浦記念館(大ホール、幼稚園舎、視聴覚教室、特別教室)竣工
	平成5年	三浦洋義理事長及び学園長に就任
	平成7年	日本音楽学校附属豊小学校及び日本音楽学校附属豊中学校を廃止
	平成9年	日本音楽学校にレクリエーション・インストラクター資格者と児童厚生指導員の養成課程設置
	平成11年	厚生大臣指定東京聖星社会福祉専門学校(介護福祉学科)設置
	平成13年	日本音楽学校保育園設置
	平成14年	日本音楽高等学校 普通科「幼児教育コース」設置
	平成15年	日本音楽学校創立100周年
	平成20年	有明教育芸術短期大学 認可(10月31日)
	平成21年	有明教育芸術短期大学子ども教育学科及び芸術教養学科の二学科で開学
	平成22年	日本音楽学校を廃止 日本音楽学校附属幼稚園を日本音楽学校幼稚園に園名変更
	平成23年	日本音楽高等学校 音楽科「舞台芸術コース」設置 東京聖星社会福祉専門学校を廃止
	平成26年	有明教育芸術短期大学芸術教養学科学生募集停止
	平成27年	有明教育芸術短期大学芸術教養学科廃止
	平成28年	日本音楽高等学校 普通科募集停止
	平成29年	日本音楽高等学校 幼児教育コースを音楽科として募集
	平成30年	有明教育芸術短期大学創立10周年
令和5年		日本音楽高等学校音楽科 幼児教育コースを募集停止
		日本音楽高等学校を女子校から共学校に変更
		日本音楽高等学校を品川学藝高等学校に名称変更
		品川学藝高等学校普通科に「eスポーツエデュケーションコース」及び「リベラルアーツコース」設置
		品川学藝高等学校音楽科の「バレエコース」を「パフォーミングアーツコースバレエ専攻」へ変更、「舞台芸術コース」を「パフォーミングアーツコースミュージカル専攻」へ変更
		品川学藝高等学校音楽科の「音楽コース」を「ミュージックコース」へ名称変更
		日本音楽学校幼稚園を品川学藝幼稚園に名称変更
		日本音楽学校保育園を品川学藝保育園に名称変更

I - 4 - (2) 学園の組織

(令和7年3月31日)



令和6年度 有明教育芸術短期大学 事業報告

1 教育課程

専任教員14名（教授9名、准教授4名、助教1名）、非常勤教員29名で、教育課程の編成・実施にあたった。

（1）役 職

学 長	若林 彰	（二期2年目）
副 学 長	長田 信彦	（再任）
学 科 長	深澤 瑞穂	（再任）
附属図書館長	有福 一昭	（再任）
子ども教育実践総合センター長	山田 麻美子	（再任）
学科長補佐	新庄 恵子	（新任）

（2）教育課程の編成

① 2学期4ターム制を実施した。前期を1ターム・2ターム、後期を3ターム・4タームでの指導を可能とした。

第1学期						第2学期					
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1ターム		第2ターム		夏休み		第3ターム		第4ターム		春休み	

今年度週2コマ×8週（2コマ連続開講）で実施した科目は以下の通りである。

○前期

- ・事前事後の指導（小学校）
- ・事前事後の指導Ⅱ（保育所）
- ・事前事後の指導Ⅲ（施設）
- ・体育科指導法
- ・特別活動と総合的な学習の時間指導法

○後期

- ・事前事後の指導Ⅰ（保育所・施設）
- ・子どもの健康と安全
- ・子ども教育特別講座4 micro:bitで遊ぼう AI入門

② 以下のデジタルコンテンツ系の科目を新設した。

- 1 「データーサイエンス」 地域保育園とのデーター連携
- 2 「プログラミング基礎」 プログラミング初級
- 3 「動画クリエイター入門」 作成から投稿までの基礎

4 「教育と ICT 活用」 教科学習における ICT 活用

5 「情報リテラシー 上級」 情報教育上級

※既存のデジタルコンテンツ系の科目

1 情報リテラシー

2 デジタルアニメーション

3 micro : bit で遊ぼう AI 入門

③『ライフキャリア演習Ⅰ～Ⅳ』を「未来デザインⅠ～Ⅵ」と改名し、学年別の編成で実施した。

1 年次：大学への適応指導、履修指導

2 年次：実習指導

3 年次：キャリア指導（就職支援）を中心とした指導を行った

④教授法の充実

・アクティブ・ラーニング（主体的、対話的で深い学び）を取り入れた指導の充実を図った。

・ICT を活用した指導の充実を図った。

オンライン授業の実践 Google Classroom の活用

オンデマンド授業 YouTube の配信

双方向型授業の展開 zoom を活用した授業

⑤オンライン授業週間の設置

全ての授業において、前期2回、後期2回、オンライン授業を実施した。

形態は同時双方向型ハイフレックス形式（教室での授業を配信）の授業とする。学生は、登校型、非登校型を任意で選択した。

<前期>

1 年 3 年 6 月 4 日（火）～6 月 17 日（月）

2 年 6 月 18 日（火）～7 月 1 日（月）（教育実習のため）

<後期>

1 年・3 年 11 月 18 日（月）～11 月 29 日（金）

2 年 11 月 25 日（月）～11 月 29 日（金）

12 月 24 日（火）～12 月 27 日（金）（教育実習のため）

（3）教育課程の点検

・6 年度及び 7 年度の教育課程の点検を行った。入学生のニーズや単位数の負担を考慮し、科目の統合や廃止及び必修科目と選択科目の見直しを行った。

・教育課程の改訂に伴い、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、ナンバリングの改訂を行った。

・教育課程の改訂及び今年度から導入したターム制を反映させ、履修規則及び履修規則別表を改正した。

(4) 学習成果の把握・評価・公表

- ・前期及び後期の GPA 分布状況にて学習成果の把握・評価をすると共に、本学ウェブ上に公表した。
- ・前期に「基礎学力テスト（外部テスト）」を実施し、学生の基礎学力の把握及び評価結果を踏まえた担任からのフィードバックを行った。また、「ライフキャリア演習」及び「未来デザイン」授業内で、「基礎学力テスト（外部テスト）」の振り返りシートを学生に記述させることによって、学生自身が課題を見つけ改善に向けて行動できるように指導を行った。

(5) 学生に対する教務的な指導

- ・4月に新生及び在校生に対して、履修に関するオリエンテーションを行った。
- ・前期及び後期開始時に、個別履修指導が必要な学生に対して教務的な指導を行った。
- ・授業への出席率が低い学生に対して、呼出指導（全5回）を行い、導に応じない学生の保証人に対する通知措置を実施した。

2 学生生活

(1) 初年次研修 1年生全員合宿の実施

①合宿の目的

新生の大学生活スタートを支援し、3年間の学びをサポートする第一歩としてガイダンス、オリエンテーション、親睦の機能をもたせた1年生全員合宿を行う。

- ・各種申請書類提出、授業履修、学修、子ども教育学科の概要など、大学生活に必要な情報を与える。
- ・保育士、幼稚園教諭、小学校教諭等に向けた3年間の学修の流れなどについて、ガイダンスを行い、1年生が大学生活に見通しをもてるようにする。
- ・学生相互、上級生、教員との親睦を図り学生の人間関係形成を図る。
- ・新2年生有志のメンターは企画担当として活動の場を設定することにより、人間関係形成能力、リーダーシップ等の実践的な学びの場とする。

②実施の概要

○実施日時・場所

2024年5月18日（土）、19日（日）

一般財団法人人材開発センター富士研修所

○参加者 1年生54名、2・3年生メンター、10名

教員12名 事務局1名 常務理事

(2) 有明祭

10月26日（土）27日（日）一般公開で実施。

学友会を中心に企画を行い、一般公開という形で実施した。

サークル、有志の学生団体によるパフォーマンスを大ホール及びドラマ演習室

で行った。飲食、展示、イベント等については、各教室、グラウンド、中庭での実施であった。例年サンリオからキャラクターを招待してイベントを行っていたが、予算縮小のため、本学非常勤教員の大島先生による「ヤッシーと遊ぼう」として実施した。

(3) サークル活動

6年度は9団体のサークルが活動した。昨年度はコロナ明けで、サークル活動実施可能を本格的に認め、活動が再開したこともあり、12団体のサークルが活動がしていたが、本年度はサークル数が絞られてきた感がある。



3 教員評価の実施

令和元年度9月に制定した「有明教育芸術短期大学教員活動評価実施規程」をもとに、教員評価活動は本年度も実施した。本学6度目の実施となる。

教員評価は本学教員が、自己の活動を点検し、評価することを通して、本学の教育研究活動の活性化を促進し、教員の諸活動への支援・啓発、本学の教育、研究及び社会貢献等の改善・向上に資するためである。対象者は、前年度1年間、本学の専任の教授、准教授、講師、助教であったものとする。評価は、「教育」「研究」「社会貢献」「管理・運営」の4領域としA～Dの評点に基づいて自己点検評価を行う。

<評価内容>

(1) 教育

①授業担当科目 ②学生の授業評価 ③教育方法の改善等 ④FD活動 ⑤サークル活動等 ⑥学生支援

(2) 研究

①学術論文・著作等 ②学会等における研究発表 ③芸術・体育系分野の業績
④外部研究費の導入実績

(3) 社会貢献

①学会の役員、論文審査委員等 ②公的機関から委嘱された審議会、委員会等の委員
③公的機関から依頼された研修会等の講師等 ④公開講座等

(4) 管理・運営

①全学的委員会及びその他の貢献実績 ②入試業務関連 ③管理職の実績

(5) 反省、省察

12月に教員活動評価実施要項に基づき、対象教員の令和5年度における教員活動評価を実施した。(提出者は13名中12名)

教員活動報告書に加えて、授業改善報告書を作成した5名に対し、規定に基づき顕彰を行った。(学長奨励賞・赤坂澄香・石井友行・池口洋一郎・新庄恵子・山本剛)

4 研究活動

(1) 有明教育芸術短期大学紀要第16巻

・研究論文 3編 研究ノート 4編

<研究論文>

①言語活動の充実を図る小学校国語科指導の在り方 (教授 長田信彦)

② 保育者養成校におけるソルフェージュを基礎とした音楽づくりと表現活動について
(助教 伊藤菜々子)

③教員及び保育指導者養成校におけるアニメーション教育 (非常勤講師 伊垣京子)

<研究ノート>

①第4期教育振興基本計画と特別活動 (教授 石井友行)

②保育内容「表現」の授業におけるリトミック実践の試みについて (教授 山田麻美子)

③小学校算数科の指導に関する意識調査ー算数科の理解と「楽しさ」ー
(客員教授 若林研司)

④在日朝鮮学校の美術教育「学美展」についての一考察ー千葉ウリハッキョの美術教育
を通してー (非常勤講師 山崎早苗)

(2) 子ども教育実践総合センター 子ども教育実践研究第8巻

<研究論文>

①保育実習指導の充実に向けて

ー「事前事後指導(保育所)Ⅰ・Ⅱ」における学生の学びと評価に関する一考察ー
(教授 角杉美恵子・教授 新庄 恵子)

②保育者養成校で求められるピアノ演奏力の考察ー2歳児を対象としたリトミック指導ー
(非常勤講師 福田 久美)

<その他>

①地域貢献とeスポーツ (客員教授 伊庭 崇)

<実践報告>

①2024年度実践教育研究会実施報告書 (教授 山田麻美子)

②2024年度「子どもたちとともに」活動報告 (助教 伊藤菜々子)

5 募集対策

令和7年度募集実績は、出願者56名となった。総合型選抜はエントリー38名、出願31名であった。特に前半6～9のエントリーは33名と非常に好調であった。しかし、学校推薦型選抜は24名にとどまった。他大学の総合型と公募制推薦の不合格になった生徒や年明けの進路変更の出願がほぼ見込めなくなっている。今後、この傾向は大きく変わらないことが予想されるため、高大連携校(5校1社)との連携の強化や品川学藝高校の内部進学入

学者の強化を図っていく。(連携校 6 名入学、内部進学 8 名)

	子ども教育学科希望 受験対象者実数	参加者総数(延べ数) 注：高1・2と友人含む、保護者は除く			
		高3以上	高2	高1	計
R6年度	113名	148名	63名	29名	243名(不明2名)
R5年度	118名	143名	67名	21名	232名(中学1名)
R4年度	182名	227名	68名	22名	321名(不明4名)
R3年度	176名	212名	71名	26名	309名
R2年度	149名	179名	38名	7名	225名(その他1名)

6 退学者

退学者は、3 名（5 年度比 - 0 名）である。3 名とも進路変更が理由である。その他、除籍は 1 名（5 年度比 + 1 名）である。教員及び教務課職員によるきめ細かな個別対応の成果が上がっていると考えている。

7 高大連携

品川学藝高等学校との連携

(1) 生徒連携

① 前期火曜5限 保育教材研究「歌と手遊び」(単位認定)

3年幼児教育コース対象 (3 年生 2 名参加)

②後期火曜日 5限

・子ども教育特別講座3「遊ぶ・解放・自己表現」(単位認定)

(2 年生 8 名参加)

・英語とコミュニケーション

(2 年生 3 名参加) (単位認定)

③有明教育芸術短期大学一日体験学習

参加者 2 年生普通科全員 音楽科希望者 8 7 名参加

内容 有明教育芸術短期大学、火曜日に実施されている授業 1 2 科目のうち、2 科目を生徒がそれぞれ選択し、大学生と共に講義を受けた。

(2) 品川学藝高等学校生徒対象の有明教育芸術短期大学によるオープンキャンパスを実施した。 実施日 3 月 11 日 対象学年 2 年普通科全員 音楽科希望者

(3) 有明教育芸術短期大学教員による品川学藝高等学校への出張講義

リベラルアーツコース チャイルドフット 全14回(90分×7) ×2期

(4) 教員連携

有明教育芸術短期大学と年2回、高大連携会議を開催 (7 月・3 月)

8 キャリア形成・就職支援

公立小学校15名、公立保育園1名が合格。 キャリア形成・就職支援の充実を図った。

(1) 公立小・幼・試験対策プログラム『夢 Realize (ユメリア)』の実施

『夢 Realize (通称：ユメリア)』とは、公立小学校教諭・幼稚園教諭・保育士・児童館職員等を目指す学生が、夢の実現（公立試験合格）に向けて自主的かつ協働的な学びを行うための支援プログラムで学びを深めた。

ねらい	1年次から目標を明確にし、3年間の主体的な学習を通して夢の実現を図る。
受講対象者	公立小学校教諭・幼稚園教諭・保育士・児童館職員等を目指す学生
実施内容	同じ目標をもった学生が学習グループをつくり、学生が主体となって採用選考試験に向けて筆記試験や論作文、面接試験の対策・練習をする。 採用選考試験終了後は、現場で対応できる力を身に付ける学習をする。 それぞれのグループには指導員が付き、学習の進め方や論作文・面接の指導・助言を行う。また、グループ学習のほか、個別相談・指導にも対応する。※キャリアサポートセンターでは、曜日限定で「公立試験対策講座」を実施。
指導員	・学科教員・キャリアサポートセンター職員

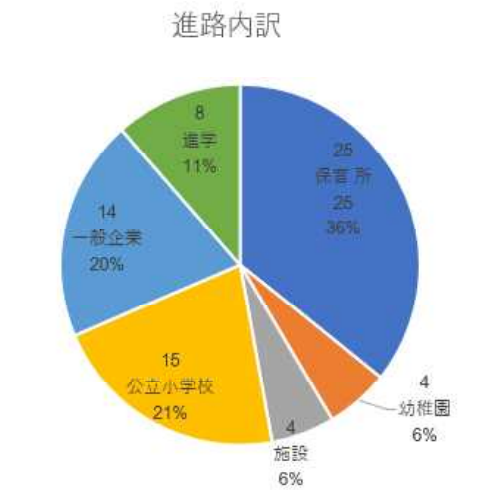
(2) 就職状況

令和4年度卒業生		計	男	女
卒業生数		73	16	57
希望進路	就職	63	14	49
	進学	8	2	6
	その他	2	0	2
決定進路	就職	63	14	49
	進学	8	2	6
	その他	0	0	0



< 進路内訳 >

保 育 所	・ ・	41.3% (26名)
幼 稚 園	・ ・	6.3% (4名)
施 設	・ ・	6.3% (4名)
公立小学校	・ ・ ・	23.8% (15名)
一般企業	・ ・ ・ ・	23.8% (14名)
進学	・ ・ ・ ・ ・	10.9% (8名)



令和6年度 品川学藝高等学校 事業報告

1 学習活動

全てのコースにおいて、基礎的な学力の定着・学習意欲の向上を高める指導とともに、各コースの専攻実技や専攻実習の技能と表現を深めることを目指し指導を進めた。特に主体的な学びを重視した指導を展開した。（※各コースの専攻実技や専門の授業も『学力』として捉えることを確認）また、「知識・技能」のみを学力として捉えることなく、「思考力・判断力・表現力」「社会に向かう力」の3点から学力を捉えて指導を進めることを年度初めに全教職員で確認した。本校の最終的な目標は「人間力の向上」であり、教科学習を初め、本校で展開される全ての学習活動は「人間力」を高めるための方法論であることも確認して指導に当たった。

※【人間力育成の視点】

「人間力」は、内閣府の人間力戦略研究所によって明確に定義。「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」と示されている。「知的能力的要素」「社会・対人関係力的要素」「自己制御的要素」の3つで構成されるものとされている。

- ①【知的能力的要素】「基礎学力」「論理的思考」、常識や固定概念にとらわれることなく新しい価値を生み出す「創造力」が含まれる。
- ②【社会・対人関係力的要素】「コミュニケーションスキル」や「リーダーシップ」、社会の一員であることを理解し社会全体の利益を考え行動する「公共心」、他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う「相互啓発力」などが含まれる。
- ③【自己制御的要素】「意欲」や「忍耐力」、「自分らしい生き方を追求する力」が含まれる。

（1）基礎・基本の定着の徹底

①指導計画の充実

ねらい、課題明確にするとともに、指導と評価の一体化を重視した指導を進めた。

②個に応じた指導の充実

習熟度に応じた学習の展開を工夫した。また、前期、後期終了後の休業中に補習授業（数学・英語）を行った。

③学習規律の浸透

学習の始め・終わりの挨拶（合図）を徹底 忘れ物0の徹底を進めた。

（2）主体的に学ぶ力の育成

①自ら学び考える授業の工夫

一斉授業からの脱却を目指した。

②総合的な探究の時間の充実

指導計画の改善を進めた。課題設定、課題解決の方法、情報、課題解決、発表準備、資料の作成、発表の指導過程を明確にした。

③自学自習の習慣の確立

その視点での家庭学習の充実を行った。

④ICTを活用した学習の充実

配布したiPadを「文房具である」として捉え、授業での活用を進めた。

各教科、領域の指導の中で、情報活用能力の伸長を図った。

2 生徒指導

(1) 建学の精神の周知

建学の精神と教育目標を額に入れ、全教室へ掲するとともに、その意義について考えさせ、愛校心とともに学びへの意識向上を図った。

(2) 基本的な生活習慣の確立

男女共学が2学年となり、一昨年度、昨年度と2年間重視してきた「人と人とのかわり」をあらためて確認した。

①朝のあいさつ

「あいさつをする側」の体験

- ・生徒会主催（朝の校門）
- ・学級ごと
- ・外部の方との挨拶

「あいさつはされるものではない。するものである」の徹底

②授業でふれ合う外部の人々とのふれあい

- ・特別授業 ゲストティーチャーからの学びの場における関わり方について実践
- ・外部の方との校内での出会いでのあいさつ 言葉遣いを重視

(3) 規範意識の自律的育成

①「基本的な生活ルール」「社会のルール」について、自ら考え、判断し、身につけていく指導を重視した

②校則による指導の撤廃

校則・ルールをただ守らせるから、生徒自身がなぜ守らなければならないのかを考えさせるようにした。制服の着こなしについても、生徒自身で考えられるようにするなど、自主性を重んじた指導の在り方について教員の意識改革を引き続き行った。

(4) 年2回「心と体のアンケート」の実施

定点観測して比較予定・養護教諭の分析及び担任へ周知し、生徒の生活改善・生徒指導に活かした。特にスクールカウンセラーとの面談指導に成果をあげた。

3 高大連携

有明教育芸術短期大学との連携

(1) 生徒連携

① 前期火曜5限 保育教材研究「歌と手遊び」(単位認定)

3年幼児教育コース対象

(3年生2名参加)

②後期火曜日 5限

- ・保育内容 (表現)子ども教育特別講座3「遊ぶ・解放・自己表現」(単位認定)

(2年生8名参加)

- ・英語とコミュニケーション

(2年生3名参加) (単位認定)

③有明教育芸術短期大学一日体験学習

参加者 2年生普通科全員 音楽科希望者 87名参加

内容 有明教育芸術短期大学にて火曜日に実施されている授業12科目の中から、生徒が2科目をそれぞれ選択し、大学生と共に講義を受けた。

(2) 品川学藝高等学校生徒対象の有明教育芸術短期大学によるオープンキャンパスを実施した。

実施日 3月11日 対象学年 2年普通科全員 音楽科希望者

(3) 有明教育芸術短期大学教員による出張講義

リベラルアーツコース チャイルドフット 全14回(90分×7) ×2期

(4) 教員連携

有明教育芸術短期大学と年2回、高大連携会議を開催 (7月・3月)

4 各学年における指導

(1) 1 学年

「本校の目指す生徒像」にある「自ら進んで学び、将来の夢にむけて、自ら計画をたて、実行できる」を重視し、学年集会などを通してキャリア教育を推進してきた。

スタディサプリの活用については、各クラスのLHRを使用して、自分が将来どうなりたいか考えさせる時間を作り、自分と向き合う時間を設けた。さらに学年の和を大切にすることを重点とし、すべての行事の中で、コース・クラスを越えて学年の和に関する指導を進めてきた。特に今年度重視したのは、総合的な探究の学習の時間での学年の和であった。4月の段階から、テーマを決め、学びたいもので班を決定、各科、各コース、男女も混合の班とした。校外学習においても総合的な探究の学習の時間の学びを活用し、まずは班の団結を構築作りのきっかけとした。その後、約1年間を通して、常に班での作業を進め、テーマからリサーチクエスション、発表原稿・資料の作成、発表までの活動過程を仲間と協力してやり遂げた。

(2) 2 学年

年間を通した進路指導部によるスタディサプリーと担任による細やかな面談により少しずつ、進路について本格的に考えられるようになった。多くの生徒が、2年生修了時には進路の方向性を決めることができ、未定の生徒も各自がそれぞれ進路について考えられるようになってきた。

生徒同士の繋がり、普通科・音楽科ではそれぞれ行うことができたが、科を越えての繋がり、個人的なものしか見られなかった。修学旅行については、生活面、行動規律面などで心配な場面も多々あったが、それらを乗り越え、良い行事となった。3年生になるとすぐに進路活動が始まるため、春休みに実施している進路希望調査を丁寧に確認し、実施していく。2年生当初は、問題行動も見られ、近隣や他学年の教員から注意を受けることの多いスタートであったが、年度の終わりには成長を感じることができた。特に、修学旅行での準備段階から実施への取組を通して大きな成長が見られ、その後の学校生活に落ち着きが見られるようになってきたことは、特筆すべきことであると考えられる。

(3) 3 学年

自分たちが最上級生として学校を創っている意識を持つようには敢えて強くは言わなかったが、全校集会で3年が時間通り集合する、静かに待つなど当然のことを為し、下級生の範となっていた。校外学習では和食のテーブルマナー講座に意欲的に取り組めた。音楽科コンサートの日程変更の影響は大きく、それなりに不満や不安定さは出たが、地道な練習を積み重ね乗り越えることはできた。学園祭への意欲は生徒により様々であったが、それぞれのコースの実情に合わせて取り組み成果を上げた。学園祭の前日準備から当日まで、担任が基本的につかず、生徒だけで進めさせた。卒業公演は日本音楽高等学校時代の形を貫いて実施した。それにより、生徒は意義を感じ、生き生きと本番での公演をやり遂げることができた。卒業式は初の学外施設「きゅりあん」での実施となったが、大きなトラブルもなく、効果的に終えることができた。生徒達は、日本音楽高等学校の生徒である意識を最後までこだわって持ち、目的を持って日々努力することが最善と信じて行動していた。また、下級生との関わりを持つ生徒、あまり持たない生徒等様々であったが、下級生からも慕われ、よい影響を与えられる3年生であった。

5 修学旅行

- ・ 2月4日 ～ 8日 アメリカ合衆国 ハワイ州 オアフ島方面
- ・ 対象（参加））生徒 2年生 150人
- ・ 引率 10人（担任 養護教諭 eスポーツ担任 校長 常務理事）

◎目的

- ①ハワイ旅行を経験することによって、国際的感覚を養い、より広い視野にたち、物事を考察できるようにする。
- ②異文化の生活様式・考え方・風土を理解する。
- ③共同生活を通して、相互理解を深め、好ましい人間関係を高める。
- ④集団生活に必要な規律遵守・協調性・責任感を身につける。
- ⑤事前学習、現地学習、事後学習に主体的に取り組むことにより、研究・探究する姿勢を身につける
- ⑥自分の将来の夢を実現させるため、思考力、判断力を身につけるとともに、人間性の向上を図る

◎実施の内容・成果

海外（ハワイ）の文化と自然について学ぶとともに、英会話の実践的体験活動を重視した活動を行うことが出来た。自主研究での体験や街に出たの英会話体験は実践的な学びとなった。

6 進路指導

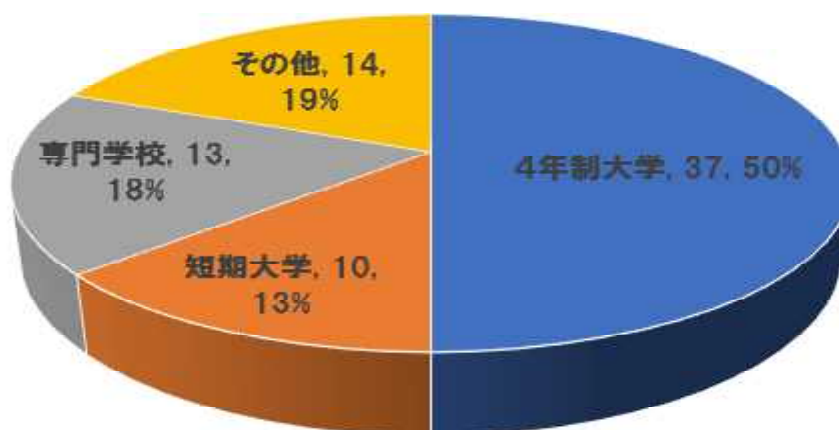
進学校ではない本校での進路指導をどうしていくか。総合型・推薦型に挑戦できる学力及び経験を積ませることと有明短大への進学者を増やすことの両立をどう果たすか、難しい課題であるが、来年度発足する高大連携部とも連携して考えていけ

るとよい新３年生への進路指導が展開されると考える。新しく着任される教員にとっても生徒にとっても明快な進路指導ができるよう、進めていきたい。

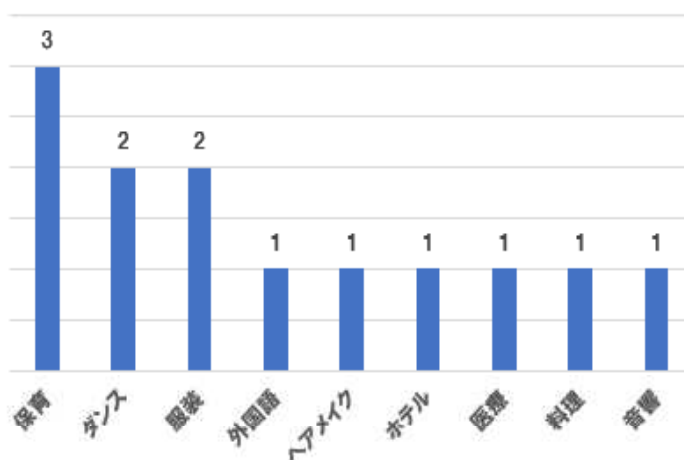
一方で今年度の３年生の合格実績は、本校の可能性を示していると言える。本校の進路活動、特に音楽科の生徒にとって現在の入試の選抜方法は追い風であった。学校で一生懸命取り組んだことがそのまま自己ＰＲにできる。ぜひ今後も学校での学びを大事に過ごしてってもらいたい。また、一般入試で一般大学の多く合格を得た生徒は、本校の授業をととても大事にしていた生徒であり、授業中の集中力が高かった。本校での学びは基礎学力を向上させていることも証明できていると考えたい。受験対策にシフトするのではなく、本校での学び、教科書に準じた学びの積み重ねを今後も続けていきたい。

<令和６年度の進路状況>

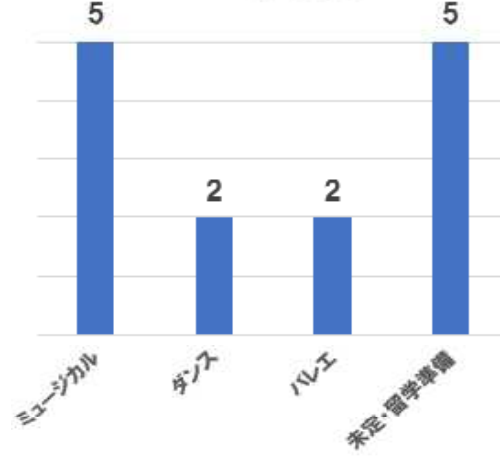
令和6年度進路状況



専門学校内訳



その他内訳



7 生徒募集

令和7年度 入学者数

	普通科		音楽科			合計
	eスポーツ	リベラル	バレエ	ミュージカル	ミュージック	
A推薦	9	4	14	21	9	57
B推薦	0	0	0	1	0	1
一般（1次）	19	7	9	18	7	60
入学決定	28	11	23	40	16	118

受検者	57	35	41	73	35	248
合格者	46	30	41	68	33	218

（１）普通科の設置３年目となり、昨年度に比して受検者は普通科では半減、音楽科では、ほぼ同程度となった。これは、基準をA推薦①9教科の合計 28以上②5教科の合計 16以上。B推薦①9教科の合計 29以上②5教科の合計 17以上としたためと思われる。にもかかわらず定員100名に対して、248名が受検した。（昨年度340名）

（２）普通科、一般合格67名の内、26名が入学し、39%の入学率である。音楽科は、一般合格147名の内、入学決定者は34名が入学し、23%の入学率である。

これにより普通科A推薦13名、一般合格26名、計39名。音楽科A推薦44名、B推薦1名、一般合格34名、計79名、併せて118名の入学者となり、入学定員ほぼ適性数内の入学者数となった。

8 退学等

全校生徒に充実した学校生活を送らせる高い満足度をもてるように指導をしてきた。特に学習面では、成績不振の生徒には、前期終了時点から、補習を行い、学力の保証に努めた。途中転学した生徒の数は、以下の通りである。

<理由>

- ・コースの学習方針との相違から通信制高校に転学（16）
- ・宝塚音楽学校に転学（1）

<途中転学や退学者数>

1年	普通科	eスポーツ：2名	リベラル：2名	計	4名
	音楽科	バ：2名	ミュージカル：2名	計	4名
2年	普通科	eスポーツ：6名	リベラル：1名	計	4名
	音楽科	バ：2名	ミュージカル：2名	計	4名
3年	舞台芸術コース	：1名		計	1名
合計				計	17名

9 その他（校内デジタル化）

（１）教務システムのデジタル化

- ・フルクラウド型校務支援システム「BLEND」の活用されている。授業出欠管理、教員間連絡、保護者間連絡などに活用をしている。

通知表もペーパーレスで保護者へ開示、学習指導要録、調査票についても、デジタル化による作成が進められた。

- ・デジタル学校日誌は、3年目の運用となり、作成者（校長補佐官）、副校長、校長、事務局が閲覧、確認がスピーディに行えるようになっている。

（２）タブレット端末の活用

- ・全教員がタブレット端末（サーフェース等）を所持することにより、校務システム、授業での活用が進められた。本年度後半より、WI-FIシステムが強化され、より使用が便利となってきた。

- ・タブレット端末（iPad）を全生徒に配布している。授業での活用について、教員研修を進めているが成果に個人差がある。効果的活用についてさらに模索中である。

令和6年度 品川学藝幼稚園 事業報告

1 保育活動

「園生活は 子どもが主人公！」を合言葉に、心身ともに健康な人間の育成を目指した。保育者との信頼関係を基盤に、集団生活の中で自己を十分に発揮し、主体的に遊びや生活が進められるようになるために、学年に応じた指導の重点を設定した。

3歳児（すみれ組）

- 一人一人の発達や育ちを踏まえ、基本的な生活習慣を身に付けられるようにする。
- 保育者に親しみをもち、安心して過ごすことができるようにする。
- 自己の想いを出しながら遊びを楽しめるようにする。

4歳児（ばら組）

- 伸び伸びと自己を表現しながら好きな遊びを繰り返し楽しめるようにする。
- 友達と関わる中で、相手の思いに気づいたり受け止めたりして、一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。

5歳児（まつ組）

- 自分のめあてに向け、試したり考えたりして取り組み、やり遂げる達成感を味わえるようにする。

指導の重点を受け、月ごとの指導のねらいを達成できるよう取り組んだ。月ごとの指導のねらいについては、園だよりを通して保護者に周知した。

（1）英語指導

ジェマ・ヘムス先生の指導を受け、4歳児、5歳児が取り組んだ。月2回程度（1回30分）の指導を受けた。英語の歌を歌ったり、動物や果物、野菜の名前を英語で言ったりと楽しく活動した。簡単な会話も行い、英語に親しむことができた。3月から、3歳児と4歳児の指導に変わり、令和7年度の移行をスムーズにできるようにした。

特に、1月以降はジェマ先生の退職希望を受け、代替者の指導がスムーズにいくよう進めてもらった。

（2）器楽指導

渡辺正明先生の指導を受け、毎週5歳児が取り組んだ。（1回1時間）10月までは運動会の鼓笛演奏に向けての指導を中心とした。11月からは、遊戯会に向けて、4歳児、5歳児の器楽指導となった。2月からは、4歳児が鼓笛演奏の初期指導を受けた。

（3）体育指導

4歳児は月2回（1回45分）櫻井由香先生から指導を受けた。3月は3歳児

に移行した。5歳児は松本幸浩先生に運動会の組体操、リレーの指導を受けた。
9月から短期間で集中して行うことができた。

(4) 幼小連携

令和6年度も品川区立宮前小学校と交流をもつことができた。

①小学生職場体験 10月25日(金)

宮前小学校より本園卒園生2名が来校。3歳児、4歳児・5歳児と交流を深めることができた。

②小学校との交流会 1月28日(火)

5歳児が宮前小学校に出向き、2年生児童と交流した。教室において、2年生児童が日直や清掃、給食の準備の仕方、ランドセル体験等小学校で行うことを実践させてくれた。

③小学校散策 1～3学期

5歳児が4月から通学する小学校を外から見学した。園児が通う予定の小学校を見学し、園児一人一人の気持ちを高めることができた。

(5) 環境教育

保育室内に数個の飼育箱があり、カマキリ、ヤゴ、クワガタ等を飼育していた。
園児たちの興味関心は高い。めだかやエビをいつでも観察できるようにした。

(6) 日々の保育

週案に沿って計画的に指導を行った。糊やクレパス、絵の具の使い方、折り紙の折り方など基本的な方法を指導し、園児が表現を楽しんでできるようにした。

また、ハーモニカや鍵盤ハーモニカ、カスタネットなども基本的な使い方を指導し、演奏活動を楽しめるようにした。

2 園の行事

(1) 遠足

①1学期 5歳児 浜川公園 5月17日(金)

4歳児 " 5月24日(金)

大井町駅集合、徒歩で往復した。

②2学期 5歳児 こどもの国 10月11日(金)

4歳児 " 10月22日(火)

3歳児 鮫洲運動公園 3月11日(火)

3歳児は予備日がすべて雨だったため、3学期にずれ込んだ。

③3学期 5歳児 お別れ遠足 上野動物園 2月 7日(金)

(2) 運動会 10月6日(日)

高校の校庭をお借りして実施した。午前中の開催とし、全園児一堂に会して行った。

(3) サマーフェスティバル 7月6日(土)

保護者の会主催。

- (4) 遊戯会 12月14日(土)

オンラインでライブ中継を行った。

- (5) 卒園式 3月15日(土)

参観制限を設けず実施した。両親のみでなく、兄弟、祖父母の姿も見られた。

3 園児数の推移

	4月1日	3月31日
3歳児	13	13
4歳児	21	20
5歳児	16	16
計	50	49

※4歳児の減少は、転居による退園

4 卒園児の進学先

品川区立戸越小学校	8名	品川区立宮前小学校	1名
〃 三木小学校	1名	〃 浅間台小学校	1名
〃 山中小学校	1名	〃 立会小学校	1名
〃 豊葉の杜学園	3名		

計 16名

5 園内のデジタル化の推進

(1) 保育システムのデジタル化

保育ICT支援システム「ルクミー」(ユニファ株式会社)を使用している。出欠席の管理、体温の記録、保護者と園からの連絡等に活用している。また、ルクミーを使用して写真の販売や預かり保育(キンダー)の申し込みもできるようになった。通知のペーパーレス化が促進できた。

4月より「れんらくアプリ」に変更。

(2) iPadの活用

全教職員(7名)にiPadを配布、出欠席の確認や、保護者からの連絡確認に活用している。オンラインでの個人面談や保護者会等の運用も視野に入れて活用を考えていく。

6 園児募集の試み

(1) 園庭開放

- ① 1回目 4月24日(水) 雨天中止
- ② 2回目 6月26日(水) 11:45~12:30
- ③ 3回目 9月11日(水) 11:45~12:30
- ④ 4回目 10月9日(水) 雨天中止
- ⑤ 5回目 1月29日(水) 11:45~12:30

⑥6回目 3月12日(水) 雨天中止

(2) 2歳児教室

対象は、本園卒園児家庭とその他家庭(園庭開放で周知)

①	5月 8日(水)	11名参加	登録者12名中9名入園
②	5月 9日(木)	2名参加	
③	5月15日(水)	11名参加	
④	5月16日(木)	2名参加	
⑤	5月22日(水)	8名参加	
⑥	5月23日(木)	1名参加	
⑦	5月29日(水)	9名参加	
⑧	6月 5日(水)	9名参加	
⑨	6月 6日(木)	2名参加	
⑩	6月13日(木)	2名参加	
⑪	6月19日(水)	8名参加	
⑫	6月20日(木)	2名参加	
⑬	6月26日(水)	8名参加	
⑭	7月 3日(水)	8名参加	
⑮	7月 4日(木)	1名参加	
⑯	7月10日(水)	8名参加	
⑰	7月17日(水)	8名参加	
⑱	7月18日(木)	1名参加	
⑲	9月 4日(水)	8名参加	
⑳	9月 5日(木)	2名参加	
㉑	9月11日(水)	7名参加	
㉒	9月12日(木)	1名参加	
㉓	9月17日(火)	6名参加	
㉔	9月18日(水)	1名参加	
㉕	9月25日(水)	6名参加	
㉖	10月 9日(水)	7名参加	
㉗	10月10日(木)	1名参加	
㉘	10月16日(水)	9名参加	
㉙	10月23日(水)	8名参加	
㉚	10月24日(木)	1名参加	
㉛	10月30日(水)	8名参加	
㉜	10月31日(木)	1名参加	

保険料 3,000円 1回 1,500円 を徴収した。

(3) 入園説明会

令和6年度は1回増やし、4回実施した。

①1回目	6月22日(土) 10:00～	12家庭(入園2名)
②2回目	7月20日(土) 10:00～	8家庭(入園0名)
③3回目	9月7日(土) 10:00～	16家庭(入園5名)
④4回目	10月19日(土) 10:00～	14家庭(入園3名)

7 預かり保育

(1) 実施状況

①通常保育後の預かり保育

- ・預かり保育延べ園児数 2,349人
- ・実施日数 195日 1日平均 12名

②長期休業期間中の預かり保育

- ・預かり保育延べ園児数 543名
- ・実施日数 46日 1日平均 11名

③振替休園日の預かり保育の実施

- ・7月16日(火)お泊り保育振替休園日 10名(長1、中7、少2)
- ・10月7日(月)運動会振替休園日 15名(長1、中10、少4)
- ・12月16日(月)遊戯会振替休園日 4名(長1、中2、少1)

④(冬季休業中)1月6日(月)7日(火)の実施16名(長1、中6、少9)

⑤(令和7年度)4月1日(火)～4日(金)の実施52名(長20、中11、少21)

(2) 実施上の課題

①担当者の配置

- ・通常時の預かり保育は預かり担当(キンダー担当という)

通常の勤務時間 9:30～17:30

18:30まで園児が残る場合 10:30～18:30

- ・担当者が休暇等を取得した際には、担任が代番をするが超過勤務となる。

- ・長期休業期間中はキンダー担当者だけに任せしまうと、他の教員との勤務日数の差が大きくなる。このことから、長期期間の預かりに係る日数の均等化を図る必要があった。

②預かりの園児

- ・振替休園日の預かりは、『月極め』の園児のみとした。
- ・給食は提供しなかった。

令和6年度 事業報告

品川学藝保育園

・保育事業

基本方針 品川学藝保育園の基本方針・保育目標・保育方針を基本に保育課程に沿って、一人ひとりの発達・発育に合わせて丁寧に関わり保育を実践している。

年度初めは、品川区全体で0歳児定員の空きが目立ち年度の途中から段々と定員が埋まっていく傾向がある。空き定員を利用した、未就園児の定期的な預かり（トキドキ保育）・一時保育の充実を図り、地域の方にも保育園を利用して知ってもらう機会としている。次年度も引き続き事業を行っていく。

品川区としても、0歳児の空きが多数ある事は承知しており、今後も大きく変わることは無いとの見解を示しており、保育運営にも関わる事案であり、保育士の確保と共に課題となっている。

建物の老朽化が進んでいるので適宜対応して頂きたい。

・保育実践

・戸外遊びも近隣の公園で繰り返し遊ぶ中で慣れ親しんでいる。クラス別に興味や発達に沿った戸外での活動を計画し、夕方も学校グラウンドや幼稚園園庭にも足を運び体を動かして遊ぶ事ができた。

幼稚園2歳児教室を活用させてもらい、保育園には無い玩具に触れ子ども達も楽しんでいる。

近隣の公園は混みあう事も多くあり、予定を変更し他の公園に移動する事がある為、法人施設が利用でき、のびのびと遊べる環境は園児はもちろんの事保護者の方も喜んでいる。

・室内遊びでは発達に応じて玩具を入れ替え、レイアウトを変更し対応している。

・外部講師を招いての活動

主に2歳児クラスが行う。

（べんちゃんと遊ぼう）年12回 うち2回はゆたか保育園と共に活動する。

（英語で遊ぼう）年6回 11月の活動は保護者7名の方が参観。

・食育

4月	5月	6月	7月
苗植え (トマト・きゅうり)	行事食 子どもの日	トマト・きゅうりを収穫し給食で提供 苗植え (サツマイモ)	行事食 七夕 トウモロコシの皮むき パプリカ 種とり
8月	9月	10月	11月
	きのこ割り	行事食 ハロウィーン きのこ割り サツマイモ収穫	
12月	1月	2月	3月
行事食お楽しみ食事会 野菜スタンプ	大根の型ぬき	行事食 節分 クッキング ピザトーストづくり	行事食 ひなまつり リクエスト給食

- ・年間を通して食材に触れたり栽培を行うなどして食育活動を行い、自分達で栽培した野菜は水やりの経験や育つ過程を観察する姿もあり、給食で提供するとよく食べている。
- ・宗教食対応（ハラール）保護者とのやり取りが非常に困難だった。品川区と連携し、保護者への面談を行う。調理と誤食のないよう毎日チェックして提供

安全・衛生対策

- ・毎月避難訓練を行う。
- ・公園で遊ぶ際には、公園チェック表を用いて安全管理を行う。
- ・各クラスにて安全チェック玩具点検を適宜行う。
- ・6月 手足口病が流行 2月 感染性胃腸炎が流行
- ・看護師が常勤となり園児・保護者・職員も安心感につながっている。
- ・備蓄の見直し

保護者支援

- 保護者の要望もあり、2歳児英語で遊ぼうの保護者参観も開催できた。全家庭の保護者が参加した。
- ・保護者に外国籍のも増えており、連絡帳はローマ字対応や個々に応じた細やかな援助を行う。
- ・地域の保護者・見学者 計21名（うち入園している園児4名）
- ・一時保育 1歳児 1名（翌月別の保育園に入園するまでの2週間のみ利用）
0歳児 1名（保護者の仕事の時に利用 月2, 3回）
- ・トキドキ保育（空き定員を活用し、未就園児を対象にした定期的な預かり事業）
0歳児 6月～12月まで 週1回計5名 2歳児 7月～3月 週1回計1名
- ・保護者より連絡帳や出欠席はアプリを使用したものが良いとの要望あり。

地域交流

近隣保育園と交流を図ることで、子ども達も職員同士も顔見知りになり、多様な人との関りや地域資源を利用し豊かな育ちに繋がっている。

ゆたか保育園	園庭開放 12回	焼き芋会	べんちゃんと遊ぼう（9月・1月）
ポピンズナーサリー	園庭開放 1回		
二葉つぼみ	園庭開放 1回		

荏原第5地域 近隣の保育園10園程集まり杜松ホームにて交流会

研修

- ・外部研修 報告一覧別紙
 - ・園内研修 園内の安全について ・AED講習（職員全員）
- キャリアアップ研修は予定通り受講できた。次年度もキャリアアップ研修を主に進めていく。

職員分担・勤務形態

- ・事務の時間を確保に課題が残る。クラス内での打ち合わせも時間の確保が難しいとの声は必ずあり工夫が必要となる。
- ・新年度当初は園児数も少なく職員配置も十分な設定ができるが、園児数増加には見通しを立てるのが難しく職員募集は課題が残る。（保育士がすぐには見つからない。）
- ・年2回職員のヒヤリングや自己評価表を用いて振り返りを行う。

1期（4・5・6・月）	・春の健診 歯科健診 6月0歳児1名入園
・園児受け入れ・	・4月1日現在 0歳児2名 1歳児10名 2歳児8名 計20名
・はじめましての会	・子どもの日の祝い会
・保護者会（資料配布）	・保育参観（0歳児2名 1歳児6名 2歳児8名参加）
・手足口病が流行（9名罹患）	
2期（7・8・9月）	7～9月 0歳児1名 1歳児2名 2歳児2名入園
・水遊び（学校グラウンド）沐浴・シャワー開始	
・七夕会	
・ミニミニ祭り（在園児のみ）	
・エアコン掃除	
・写真販売	
3期（10・11・12月）	10～12月 0歳児4名入園 ・秋の健康診断 ・歯科検診
・運動会 146名参加（職員・園児含む）	
・ハロウィーンでは、近隣の商店の方や保護者の方よりお菓子を頂く。	
・第1回拡大委員会開催	
・個人面談（希望者のみ）	
・出張読み聞かせ（ゆたか図書館）	
・小さな音楽会（動画配信）	
・お楽しみ食事会 ・布団乾燥 ・トキドキ保育開始	
4期（1・2・3・月）	1月 0歳児1名入園
・新年おめでとう会・節分・ひな祭りは園内で楽しむ	
・保護者会 ・第2回拡大委員会	
・2歳児クッキング（ピザトースト作り）	
・2歳児 遠足（エコル戸越）	
・さようならの会	
・学校110番新規交換 ・設備点検 ・カーテンクリーニング	
・感染性胃腸炎が流行（10名以上が罹患し保健所に通達）	
・動画配信（日常保育の様子）・写真販売	